



## 普通科1年SDGs フィールドワーク

### エンジニアリングコース

7月6日(木)は普通科1年生SDGs フィールドワーク エンジニアリングコースが実施されました。今年度は建築されたばかりの野口遵記念館で実施できました。

地元の企業の実験や実習を伴う講話もあり、生徒たちは、ものづくりに取り組む企業活動への理解を深めることができました。延岡高校SSH事業は地元の多くの企業と連携して科学技術人材の育成に取り組んでいます。



東郷メディキット様提供の模型に点滴用留置針を刺す1年生

## MS科1年SDGs フィールドワーク

7月10日(月)に行われたメディカル・サイエンス科1年SDGs フィールドワークでは、工都のべおかを中心とした企業5社から招いた講師と共に実験を行いました。生徒たちは学校にはない様々な機器を用いて探究的な学びができていました。

また今回来ていただいている講師には他県の大学に進学した後、今春延岡の企業に就職した本校卒業生も含まれます。



本校卒業生の甲斐奈月様(旭有機材株式会社)が説明している場面

## SSH 成果発表会

7月18日(火)の午前中、3年生が取り組んだ課題研究の集大成として、研究成果を3年生全員が英語で発表しました。大学関係者や留学生、他校の教育関係者など多くの方が来場してくださいました。

来場者からの英語の質問に、英語で回答する場面もみられ、SSH事業が目指す「国際的に活躍できる科学技術人材」への第一歩を踏み出せていることが確認できました。この3年間で学んだことはこれから大いに役立つことだと思います。



英語での発表を聞いた後に質問をしている場面。多くの班でも同じような光景が見られました。

## 編集後記

(関係者のみ配布、学校公式サイトは非掲載)

### SSHって何？

このコーナーではSSH事業全体の担当者が今回の記事の内容や、科学教育や、君たちに伝えたいことを思い付くままに書いていきます。

さて、1年生の皆さんは延岡高校に入学して1学期が終わろうとしています、この1学期はどうだったでしょうか。延岡高校に入学してSSHという言葉をよく耳にするとと思いますがどういうものか理解できたでしょうか。在校生はどうでしょうか。

SSHとはスーパーサイエンスハイスクールの略称で、国立研究開発法人科学技術振興機構次世代人材育成事業であり、文部科学省が指定する国の事業の1つです。指定を受けた学校では、科学技術系人材の育成のため、各学校で作成した計画に基づき、独自のカリキュラムによる授業や、大学・研究機関などとの連携、地域の特色を生かした課題研究など様々な取り組みを積極的に行っています。また国際性を育むための取組を推進し、創造性、独創性を高める指導方法、教材の開発等の取組を実施しています。

全国で約5000の高校がある中で、このSSHに指定されている学校は217校しかありません。本校は採択されて4年目となります。「SSH事業のメインは課題研究である。」といわれます。課題研究が成功すれば、その学校のSSH事業はうまくいっていると断言する人も多いです。本校でも課題研究を行っていますが、サイエンスと聞くと数学・理科というイメージがあり、理系の研究をしないといけないのかと思われるかもしれませんが、本校は文系の人も各班テーマを決め、研究をしています。文系独自の視点から様々な研究を行っており、先日の3年生の成果発表会では本校のSSH運営指導委員の先生方から非常に高い評価をいただいております。

このようなSSHに指定されている延岡高校に入学してきた時点で、他の学校では経験できない特別な経験をすることができます。

例えば1年生ではフィールドワーク(以降FW)というカリキュラムを通して、普通科は地元の企業の実演や講演を聞いたり、MS科は企業の方々が直接来校され、学校にはない機器を使った専門的な実験をするなど地元企業について知るとともに、科学的な考え

方を深めることができます。2学期には普通科では地元の豊かな自然環境について実際に現地へ赴き、体験しながら学ぶナチュラルサイエンスコースや、九州保健福祉大学へ行き、大学の先生方が講義・実験をしてくださるメディカルサイエンスコースが実施されず。MS科の生徒は引き続きハイレベルな実験・実習を継続していきますので、高い技術・知識を身につけられます。私自身昨年ナチュラルサイエンスコースで地元の北川に行きました。何も知らなければ普通の川ですが、このFWを通して北川が日本でもトップレベルの川だということを知り、延岡には誇れる自然環境が多いということ、身近に知っているようで知らないことがあるのだということに気づかされました。

2年生では1年次に決めた課題について1年間をかけて研究をしていきます。研究していく過程で分からないことや研究方法に悩むこともあると思いますが、本校には多くのメンターやアドバイザーの方々が君たちの研究に対してアドバイスをしてくださります。安心して研究に取り組むことができる環境が整っています。自らテーマを決め、計画を立てて1年間研究を行うことで科学的な深い学びを通して、独創性、創造性、計画力が身につくとともにコミュニケーション能力や人間力も養われていきます。

3年生ではこれまでの集大成を英語で発表します。先日の発表では3年生が堂々と発表をしている姿を見ると、これまでの本校での研究を一生懸命取り組んでいたのだということを知ることができました。3年間で培った経験は必ずこれからの君たちの生活に活かされていきます。自信をもって自分の目標実現に向けて頑張ってください。

ここまで話してきたように本校だからできる様々な経験があるのは伝わったでしょうか。もちろんSSHのカリキュラム以外にも萌樹祭やクラスマッチなど多くの行事もあります。充実した高校生活になるように色々なことに積極的に挑戦していきましょう。

また今年度の1年のMS科FWのメンターになっていただいた本校卒業生のように、卒業後は地元に戻ってきて、様々な場所で活躍してくれる人が多く出てくれると我々としても嬉しく思います。